伊勢物語（梓弓）　＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

昔、男、片田舎に住みけり。男、宮仕へしにとて、別れ惜しみて行きにけるままに、三年来ざりければ、A待ちわびたりけるに、いとねむごろに言ひける人に、今宵会はむと①契りたりけるに、②この男来たりけり。「この戸開け給へ。」とたたきけれど、開けで、歌をなむ詠みて出だしたりける。

Ⅰあらたまの年の三年を待ちわびてただ今宵こそ新枕すれ

と言ひ出だしたりければ、

Ⅱ梓弓ま弓槻弓年を経て我がせしがごとうるはしみせよ

と言ひて、往なむとしければ、女、

Ⅲ梓弓引けど引かねど昔より心は君によりにしものを

と言ひけれど、男帰りにけり。女、いとかなしくてB、後に立ちて追ひ行けど、え追ひつかで、清水のある所に伏しにけり。そこなりける岩に、指の血して書きつけける。

Ⅳあひ思はでC離れぬる人をとどめかね我が身は今ぞ消え果てぬめる

と書きて、そこにいたづらになりにけり。

問一　次の**ア**～**ウ**の本文中の漢字の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

ア　三年　　**イ**　指　　**ウ**　離（れ）

問二　波線部**A**～**C**の語句の意味を終止形で答えなさい。

問三　傍線部①とあるが、何を「契りたりける」のか。一〇字以内の現代語で答えなさい。

問四　傍線部②は次のうちどちらか、記号で答えなさい。

ア　男（宮仕へしける男）　　**イ**　いとねんごろに言ひける人

問五　Ⅰの歌から係助詞と受ける語を抜き出しなさい。

問六　ⅠとⅢの歌からそれぞれ枕詞と導かれる語を抜き出しなさい。ただし、導かれる語が用言の場合は終止形で答えなさい。

問七　Ⅱの歌から序詞と導かれる語を抜き出しなさい。

問八　Ⅱの男の歌はⅠの女の歌のどの部分に応えて、どんな思いを詠んだものか、説明しなさい。

問九　Ⅲの女の歌はⅡの男の歌のどの部分に応えて、どんな思いを詠んだものか、説明しなさい。

問十　本文の内容として正しいものには○、間違っているものには×をつけなさい。

ア　帰ってしまった男の気を引くため、女は指の血で歌を記した。

イ　去った男に追いつくことができない嘆きを辞世の歌として血文字で残し、女は死んだ。

ウ　二人の男の愛情に決着をつけることができず、女は死を選択することで終止符を打った。

エ　女は、宮仕えに行き三年帰らぬ男への愛情がなくなったので、別の男と再婚することにした。

問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二		問一
ア			序詞	Ⅰ	係助詞			C	A	ア
				枕詞						
イ										
ウ										
					受ける言葉					
エ				導かれる語						イ
			導かれる語							
				Ⅲ					B	ウ
				枕詞						
										（れ）
				導かれる語						

学年
組
番号
氏名
得点

伊勢物語（梓弓）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　人物関係などの内容の読解、作者の位置など、物語の背景、歌物語の修辞法など古典の幅広い力を問う。

☆解答例と配点

問一　**ア**　みとせ　**イ**　および　**ウ**　か（れ）〈1点×3〉

問二　**A**　待ちくたびれる　**B**　どうしようもなく切ない　**C**　疎遠になり、関係が絶える〈2点×3〉

問三　今夜結婚すること。〈4点〉

問四　**ア**〈3点〉

問五　（係助詞）こそ　（受ける言葉）すれ（完全答）〈3点〉

問六　**Ⅰ**　（枕詞）あらたまの　（導かれる語）年　**Ⅲ**　（枕詞）梓弓　（導かれる語）引く　（各完全答）〈3点×2〉

問七　（序詞）梓弓ま弓槻弓　（導く語）年　（完全答）〈3点〉

問八　「ただ今宵こそ新枕すれ」に応えたもの。改めて過ぎ去った時の重さを感じて、二人の愛はすでに過去のこととして、立ち去ろうとしている。〈5点〉

問九　「我がせしがごと」に応えたもの。男があきらめの言葉として言ったことに感じて、かえって、過去のことや本来の男への気持ちを思い出している。〈5点〉

問十　**ア**　×　**イ**　○　**ウ**　×　**エ**　×　〈3点×4〉

計50点